

## 第2章

# 調査結果の概要

令和元年度から令和6年度の6年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問調査の質問項目、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

# 1 「学力の伸び」の状況（令和元年度～令和6年度）

## (1) 「学力のレベル」の経年変化（令和元年度から令和6年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- 多くの学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。

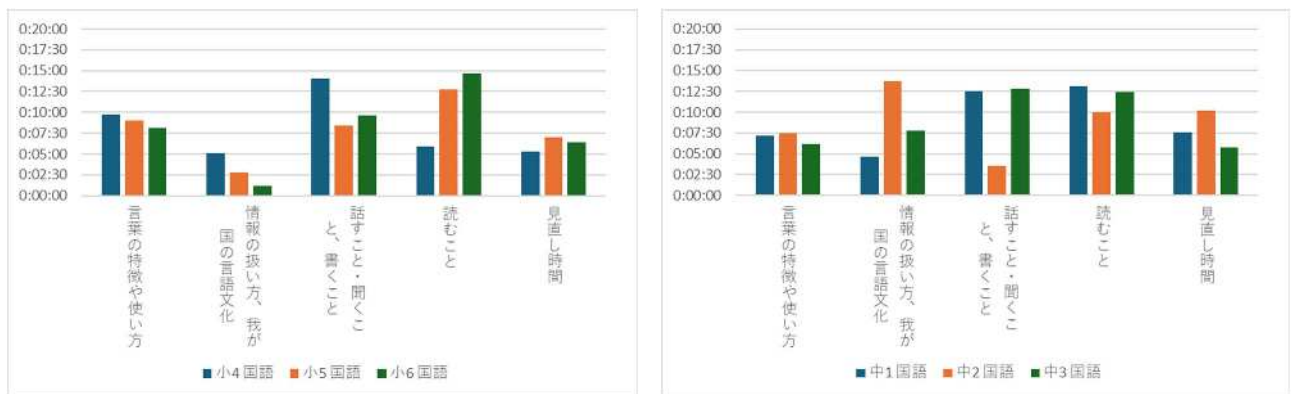


※表の数値は、各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。  
 ※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定している。

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

## (2) 各学年における各教科の領域ごとの解答ログの結果

### 〔国語集計結果〕



#### ○小学校

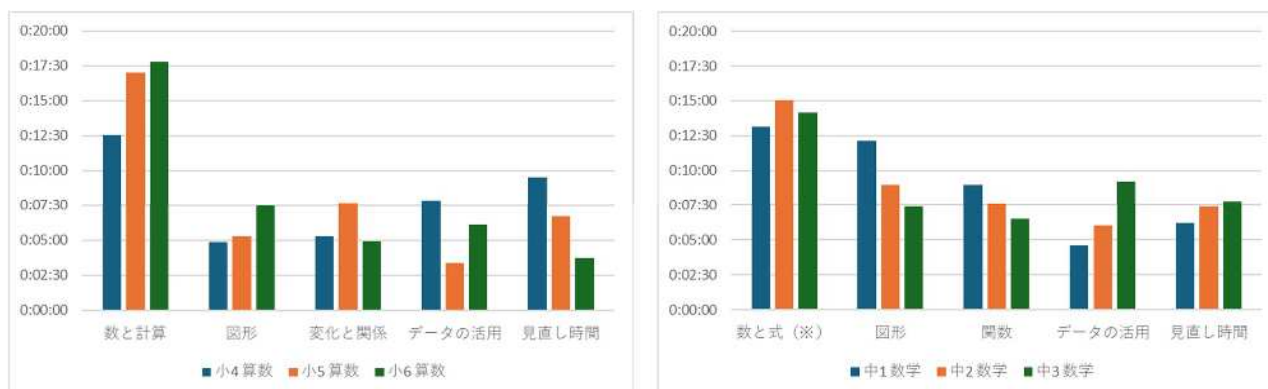
学年が上がるにつれて、「言葉の特徴や使い方」と「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域で、時間が短くなる傾向がある。

一方で、「読むこと」の領域では、学年が上がるにつれて、時間をかけている傾向がある。また、見直し時間では、どの学年も5分以上時間をかけて取り組んでいる。

#### ○中学校

「言葉の特徴や使い方」の領域では、どの学年も同程度の時間をかけていることが分かる。また、2年生は「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域に時間をかけていること、見直しにどの学年よりも長い時間を取っていることが分かる。

## 〔算数、数学集計結果〕



※中1については、小学校「数と計算」より出題されている。

### ○小学校

「数と計算」と「図形」の領域では、学年が上がるにつれて、時間をかけている傾向がある。

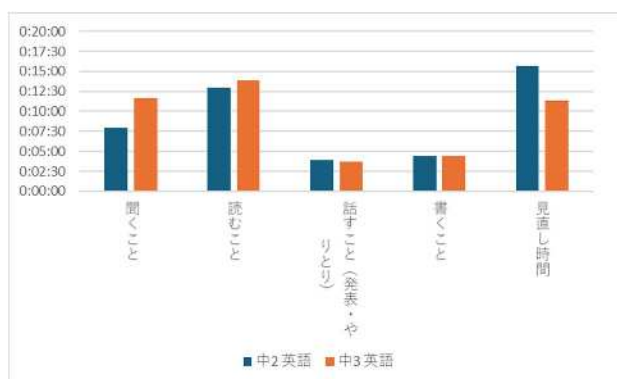
5年生は、「変化と関係」の領域で他の学年よりも時間をかけているが、「データの活用」の時間が短くなっている。

学年が上がるにつれて「見直し時間」が減少傾向となっている。

### ○中学校

「数と式」の領域は、どの学年も同程度の時間をかけている。学年が上がるにつれ、「図形」と「関数」の領域で減少し、「データの活用」の領域と「見直し時間」が増加する傾向にある。

## 〔英語集計結果〕



「聞くこと」「読むこと」の領域では、学年が上がるにつれて増加傾向であり、「話すこと(発表・やりとり)」「書くこと」の領域は横ばいとなっている。

「見直し時間」は、学年が上がるにつれて短くなっている傾向である。

## 2 調査からみられた傾向

### (1) 「学習方略(努力調整方略)」と「学力」

#### ① 学習方略（努力調整方略）と学力

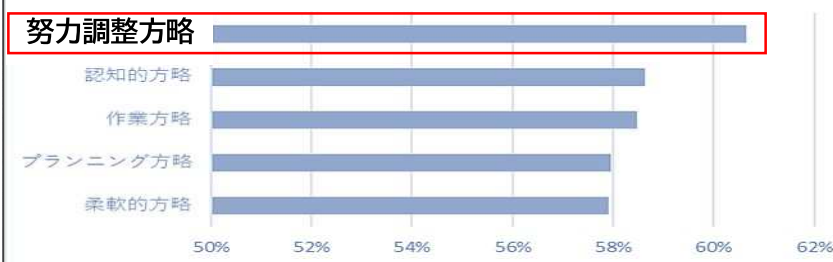
- 県学調で調査している努力調整方略とは、「苦手」などの感情をコントロールして学習へ向き合おうとする意識です。
- 令和6年度調査では、学習方略を伸ばした生徒の学力を伸ばした割合が高いことが分かりました。その中でも、特に、努力調整方略の「伸び」と学力の「伸び」に正の相関があることが分かりました。

#### 努力調整方略の「伸び」× 学力の「伸び」

R6

正の相関を確認

#### 中3 学習方略を伸ばした生徒が学力を伸ばした割合



苦手だけどあきらめないぞ!



#### ② 努力調整方略を伸ばすための取組例

児童生徒の粘り強い取組を継続して支援します

努力の過程を実感させる声かけをします



児童生徒のがんばりを見える化します

個々の目標を目指して努力している児童生徒それぞれの段階に合った声かけをします

#### 【参考①】 県学調の分析から分かったこと



【①～④】 主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】 「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

#### 【参考②】 令和5年度調査の分析から

自己効力感を伸ばしている児童生徒 × 学力の「伸び」

自己効力感を伸ばしている児童生徒 × 学習方略・他の非認知能力の向上

詳細については、[令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査報告書 - 埼玉県 \(saitama.lg.jp\)](https://www.saitama.lg.jp)を御参照ください。

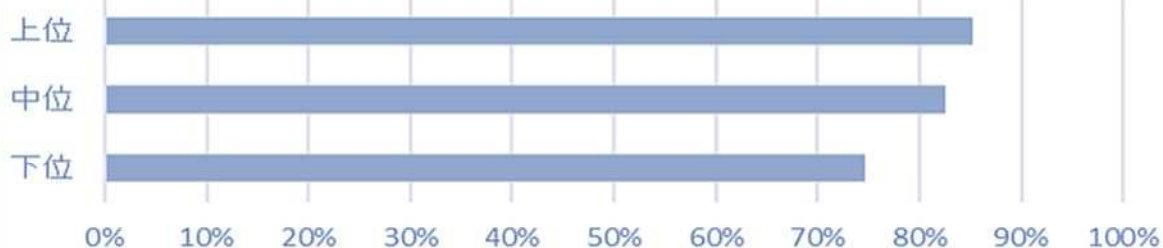
## (2) 「学びの系統性」と「学力」

### ① 以前に学習した知識のつながりと学力

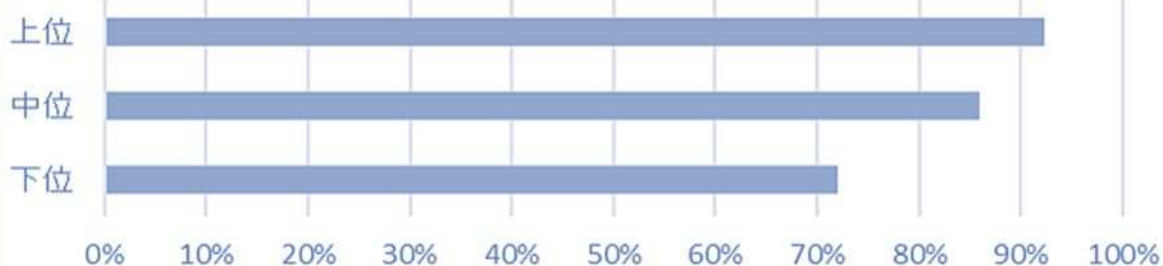
- 児童生徒質問調査の質問項目「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか」の回答と学力の関係について、正の相関関係が見られました。
- 令和4年度調査で、以前の知識とつながった経験があった児童生徒は、学力が高い傾向(\*)にあることが分かっておりましたが、今年度新たに重回帰分析を行い、確かなものとなりました。

### 以前の学習した知識の「つながり」× 学力

小6 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか



中3 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか



(\*)学力層別の 「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合  
上位は学年の25%以上、中位は25%以上25%未満、下位は25%以下

### ② 個々の知識を結び付け、深い学びを促すための取組例



### (3) 「学びの系統性」と「学習の見通し」

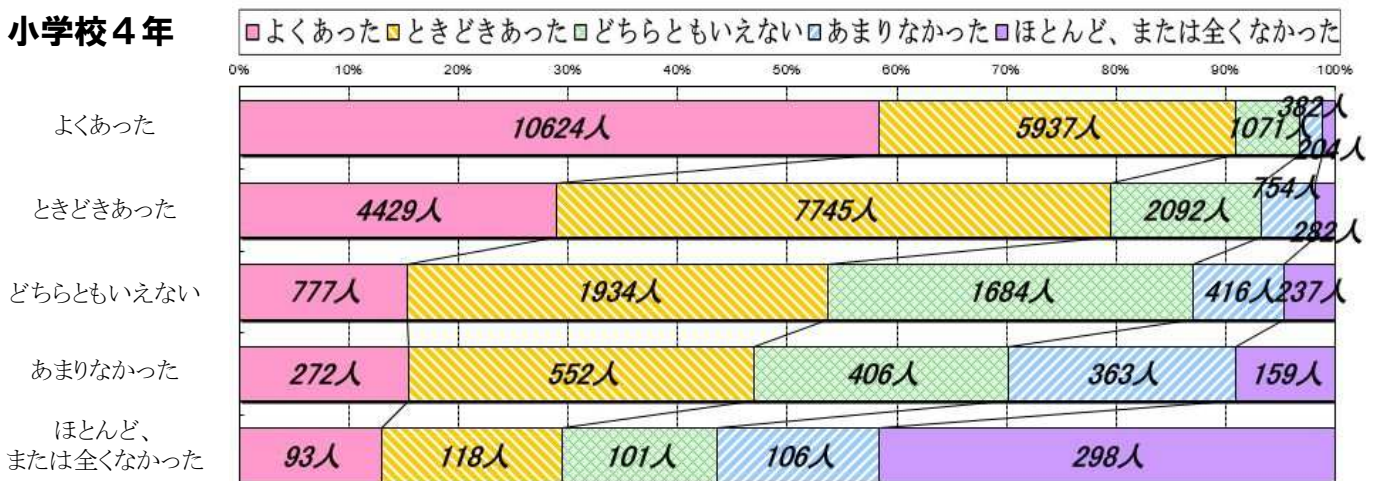
**【概要】**  
 「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながった」経験がある児童生徒ほど、自分自身について「授業の初めに、今日はどんな学習をするのかを把握してから学習に取り組んだ」経験があると回答する傾向が見られる。

- 【先生方へのメッセージ】**
- 学習の導入時に、前時や既習事項等の振り返りを児童生徒の学習の定着等を把握しながら、意図的な発問を行いましょう。  
 教材研究時の参考資料:帳票45の解答ログ(既習事項の正答率と解答時間)
  - 振り返りを行った後に、児童生徒からの意見を聞きながら、本時の学習の見通しを教師がファシリテートしていきましょう。
  - 教材研究時には、年間指導計画等を把握するとともに、教師自身が既習事項や今後の学習内容等の学びのつながりを大切にしながら、意図的・計画的に授業を行いましょう。

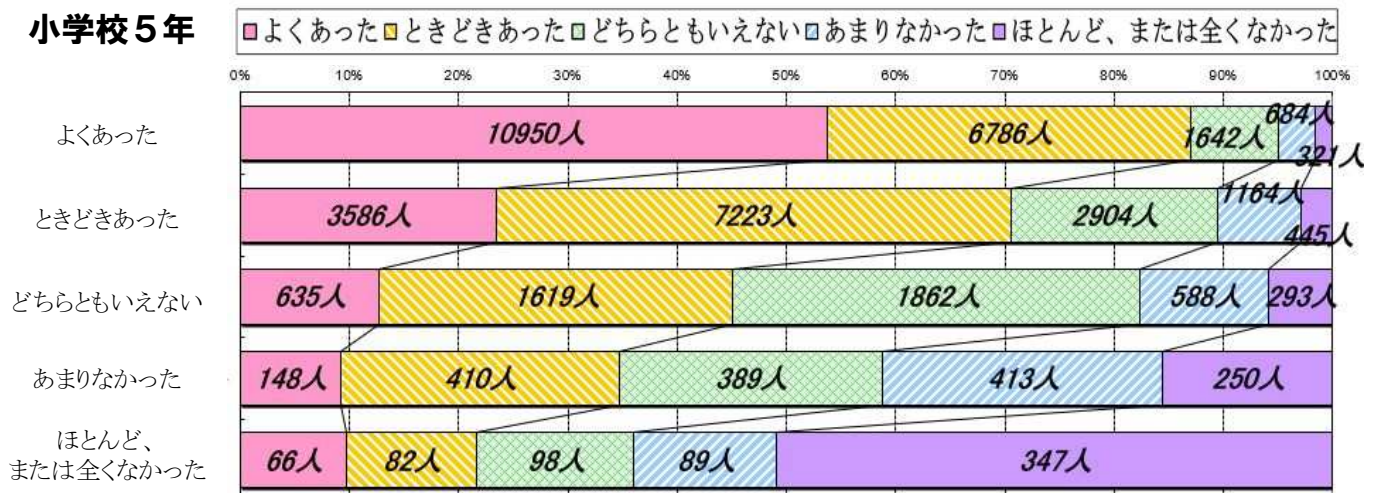
横軸カテゴリー⇒ 授業の初めに、今日はどんな学習をするのかを把握してから学習に取り組んだこと

縦軸カテゴリー⇒ 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと

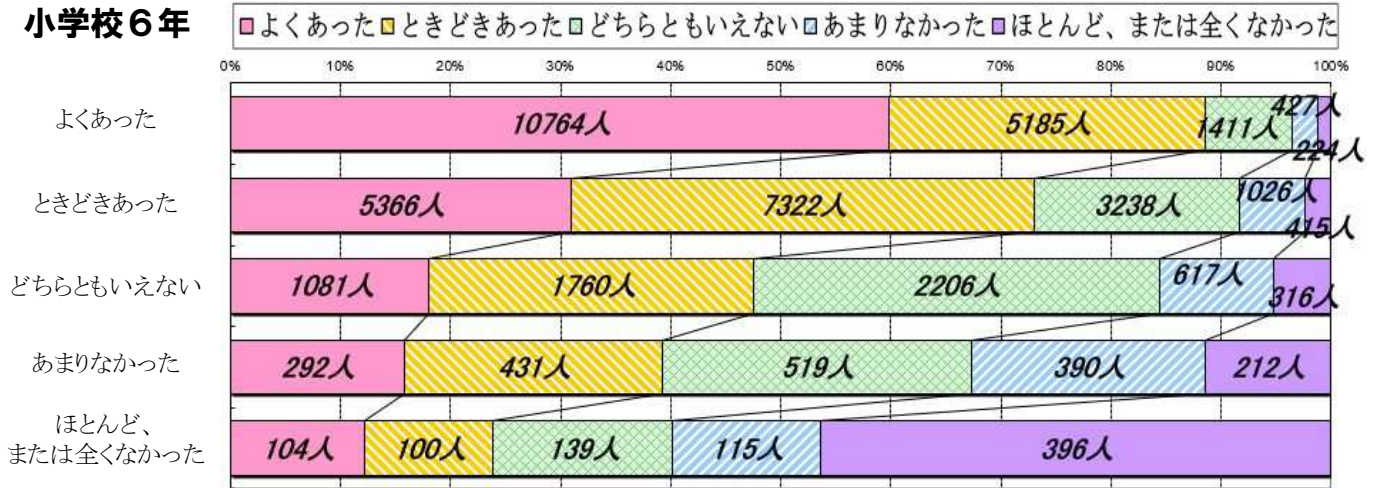
#### 小学校4年



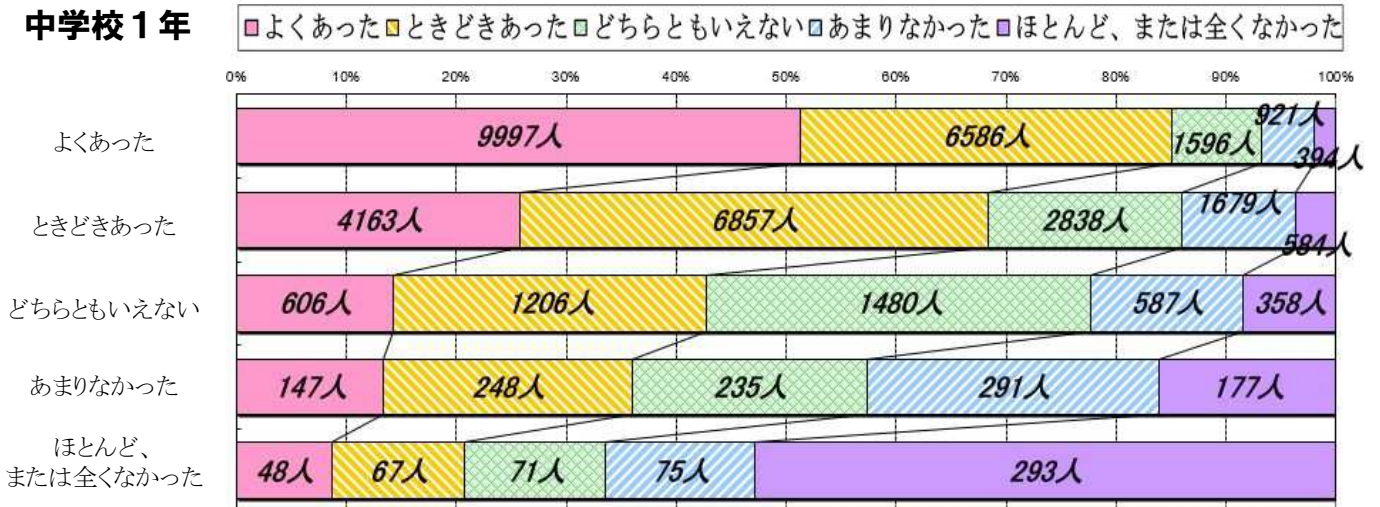
#### 小学校5年



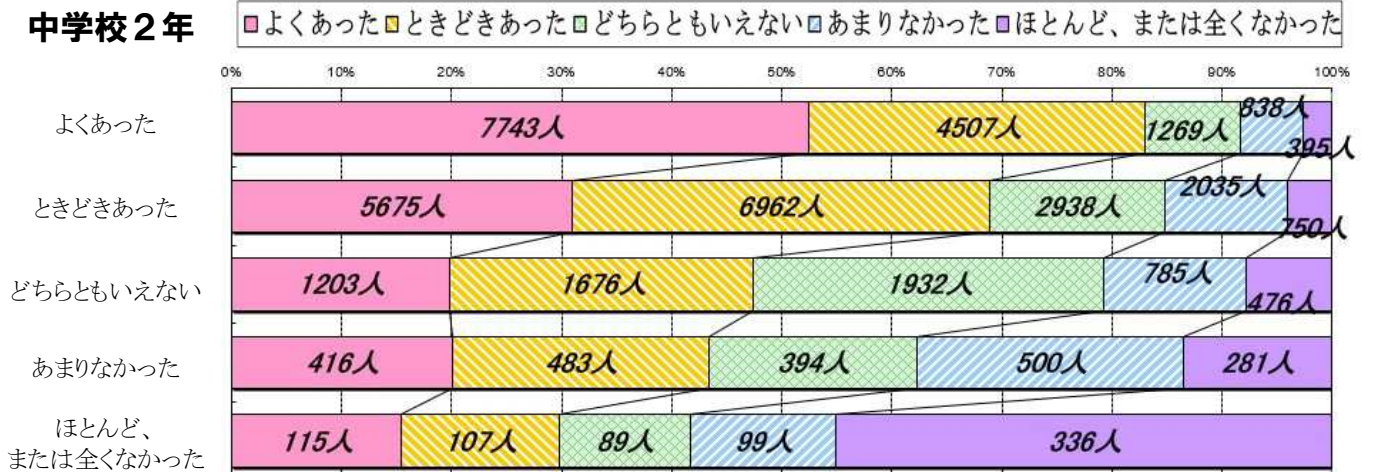
### 小学校6年



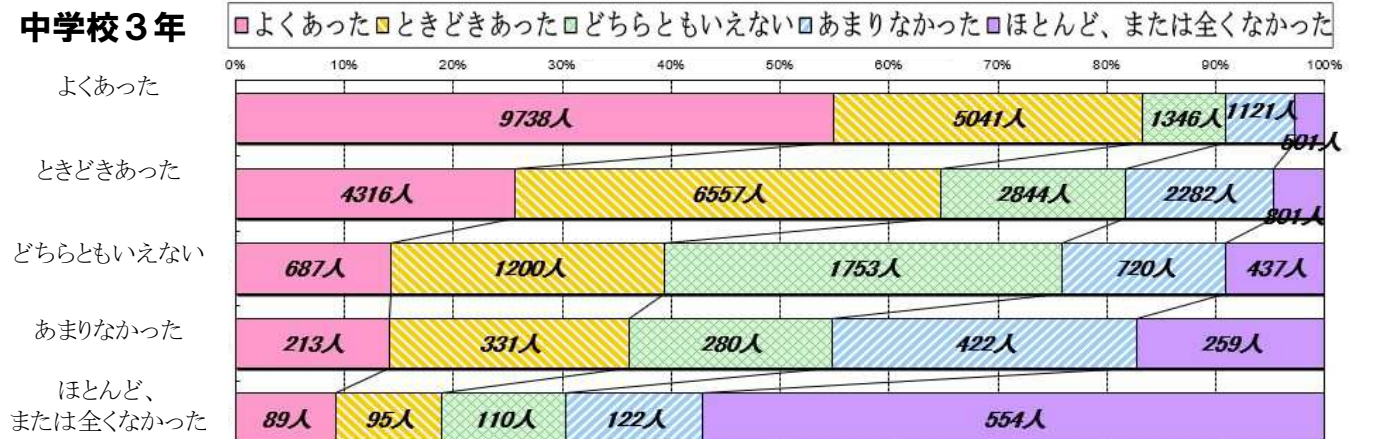
### 中学校1年



### 中学校2年



### 中学校3年



## (4) 「場面に応じた優しい言葉遣い」と「自分の考えの変容」

### 【概要】

「相手の気持ちを考え(\*1)、優しい言葉遣いができている」と回答する児童生徒ほど、「話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりする(\*2)」傾向がある。

(\*1) 中学校では、「相手の気持ちやその場の状況を考え」と質問

(\*2) 小4、小6、中2は前学年の国語について、小5、中1、中3は前学年の算数、数学についての質問

### 【先生方へのメッセージ】

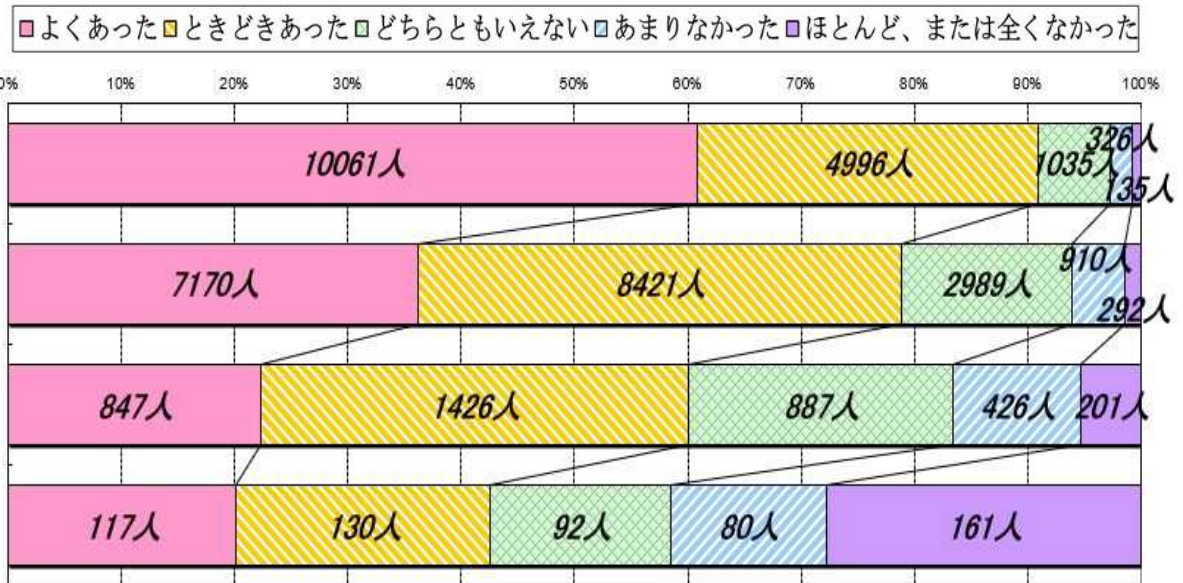
○ 道徳で、相手の気持ちや置かれている状況、困っていることなどを自分のこととして想像する場面を設定したり、学校生活の中で相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行っていることへの称賛をしたりしましょう。

○ 発表し合う機会を提供し、失敗を恐れず、間違いやできないことが笑われない、お互いに関心を抱き合う授業を展開し、共感的な人間関係を育成していきましょう。

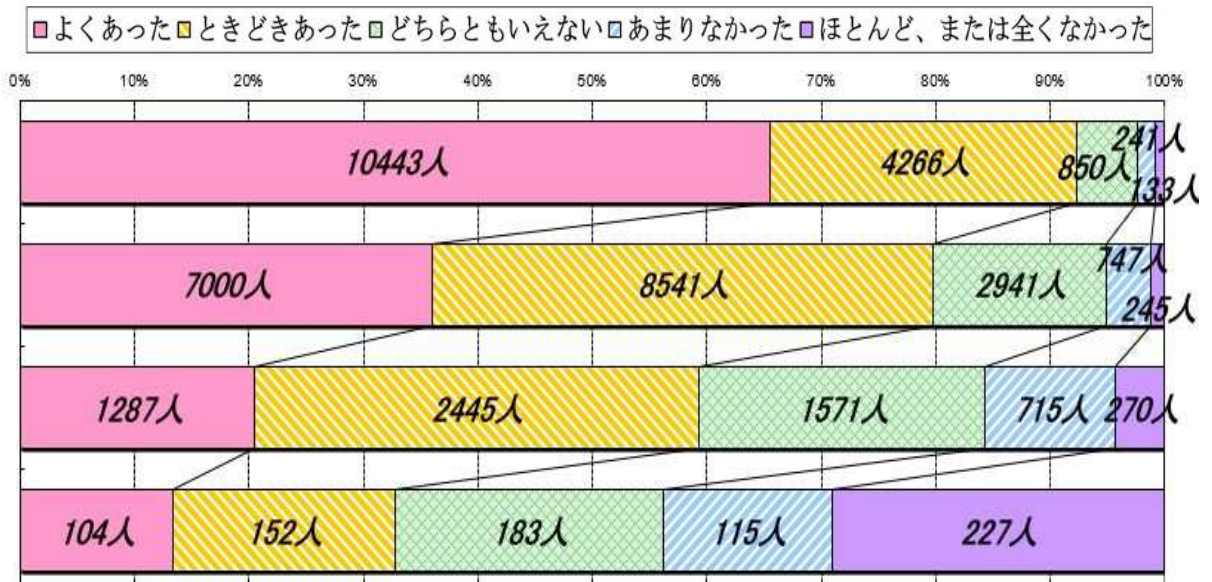
横軸カテゴリ⇒ 相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができていますか

縦軸カテゴリ⇒ 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと

### 小学校4年



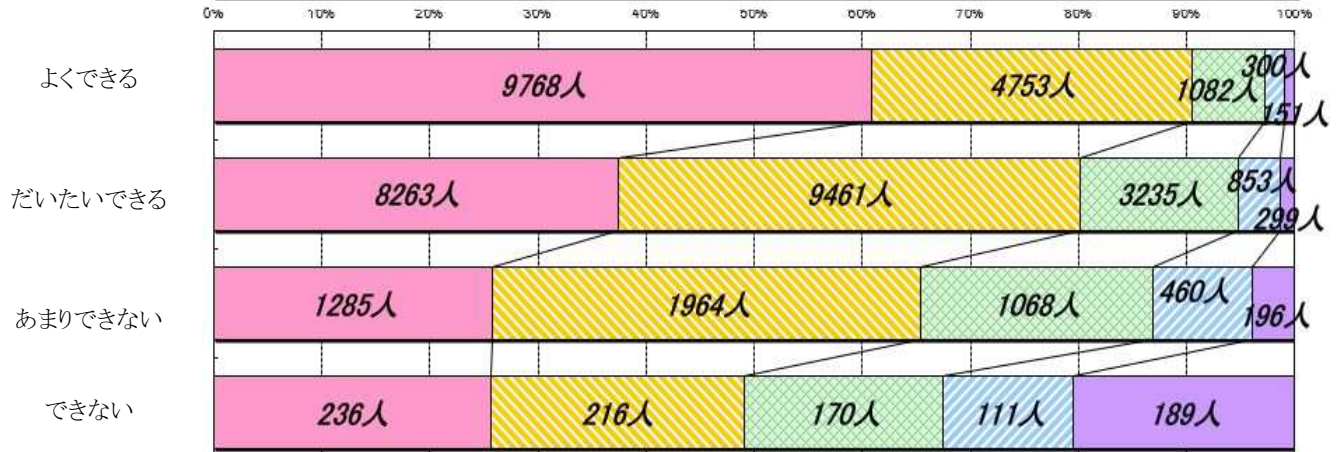
### 小学校5年





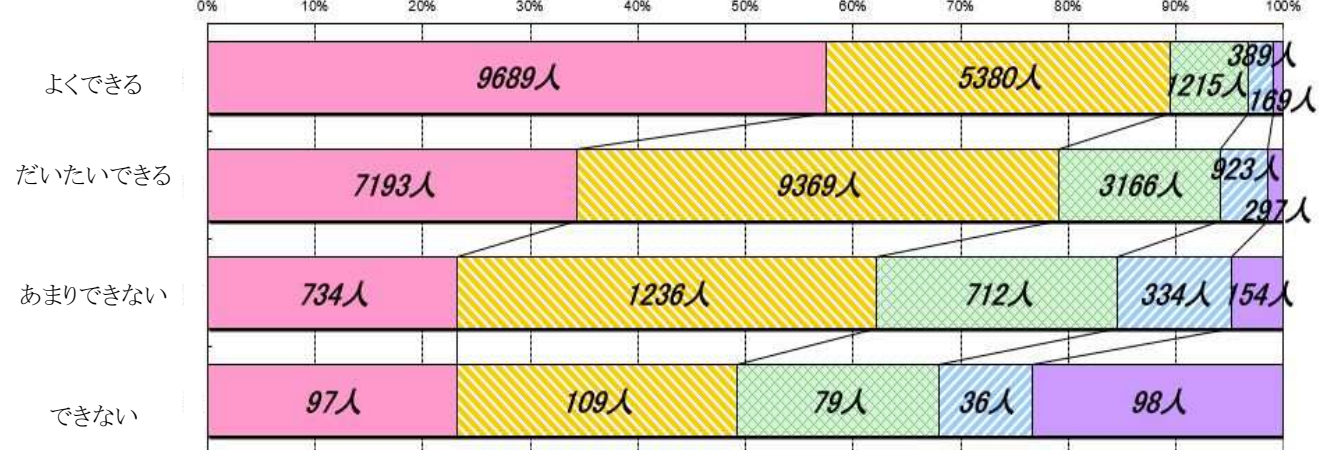
### 小学校6年

よくあった ときどきあった どちらともいえない あまりなかった ほとんど、または全くなかった



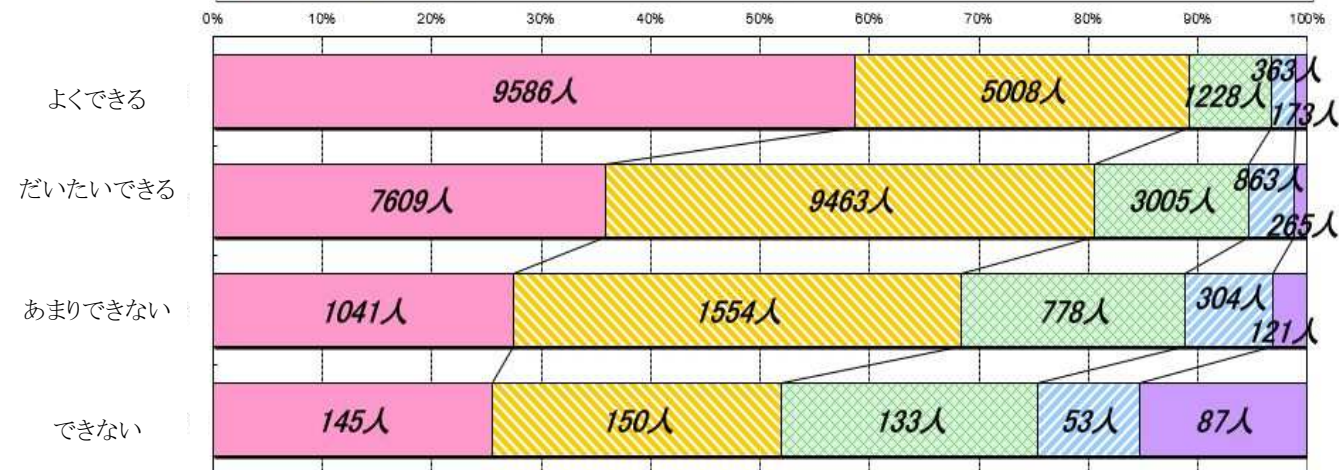
### 中学校1年

よくあった ときどきあった どちらともいえない あまりなかった ほとんど、または全くなかった



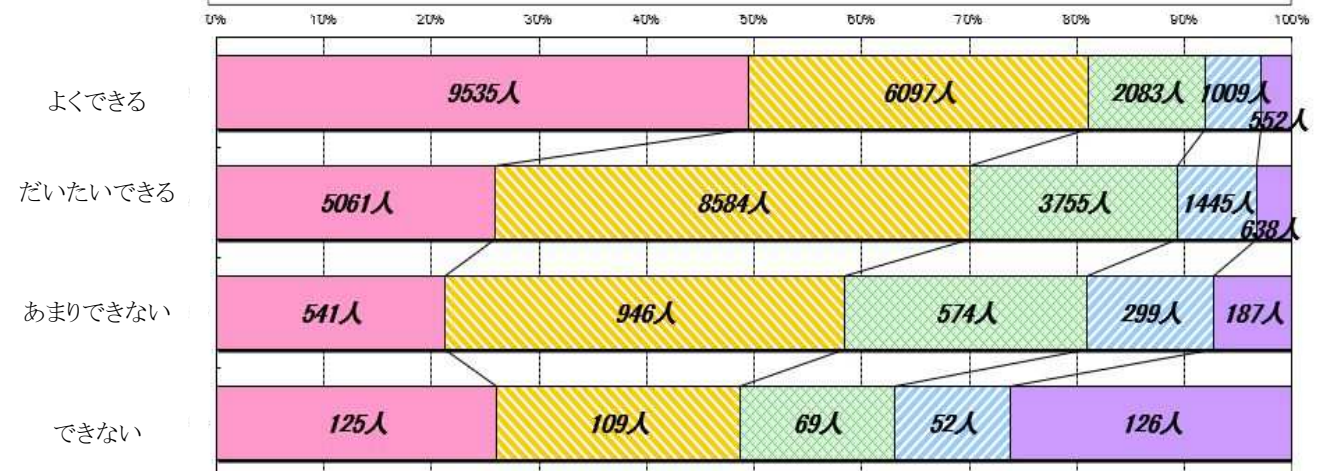
### 中学校2年

よくあった ときどきあった どちらともいえない あまりなかった ほとんど、または全くなかった



### 中学校3年

よくあった ときどきあった どちらともいえない あまりなかった ほとんど、または全くなかった



# (5) 「学力」と「場に応じた態度」

## 【概要】

学力の上位25%は、「人の集まる場所では静かにし、その場にふさわしい態度をとることができる」、「よくできている」と回答している。一方で、「あまりできない」「できない」と回答している児童生徒の割合は、学力の下位25%が多くなる傾向がある。

## 【先生方へのメッセージ】

○ 児童生徒が「人の集まる場所では静かにし、その場に応じたふさわしい態度」をとることができると思うためには、学校生活の中でのプラスの声かけ(小さなこと、当たり前なことでも称賛し、それを積み重ねていく等、できていることを実感させること)が何より大切です。日々の授業や生活の中での声掛けを継続的に行っていきましょう。

○ ガイダンスを充実し、児童生徒が主体的な取組となるよう学級や学年集会等で話をしましょう。

参考資料：文部科学省「生徒指導提要（改訂版）」P.26『1.3.3 ガイダンスとカウンセリング』

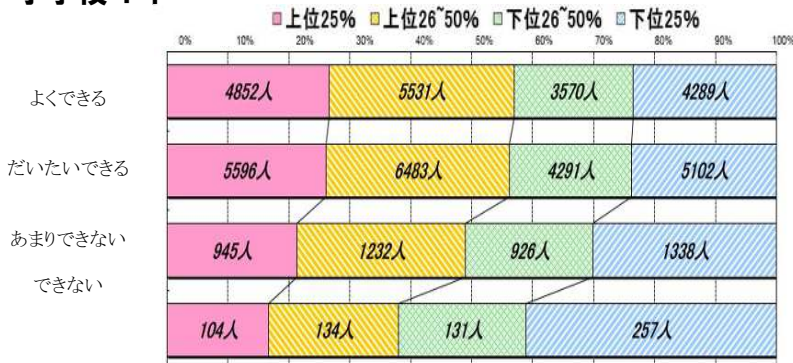
[https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt\\_jidou01-000024699-201-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf)

横軸カテゴリー⇒ 学力層

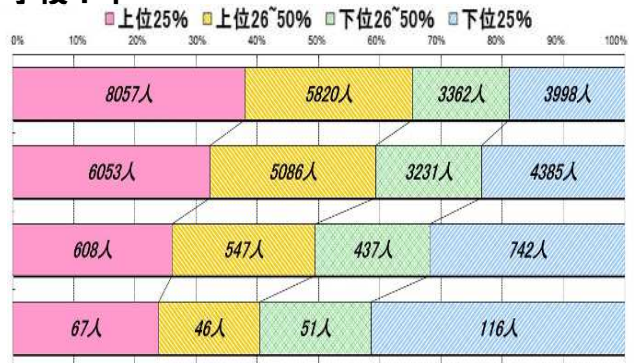
縦軸カテゴリー⇒ 人の集まる場所では静かにし、姿勢を正すことができますか

# 国語

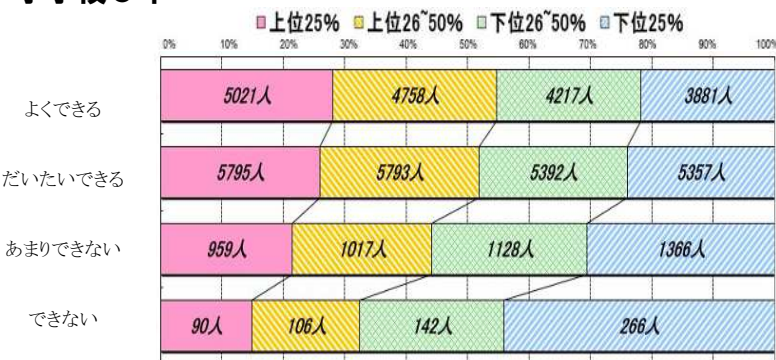
### 小学校4年



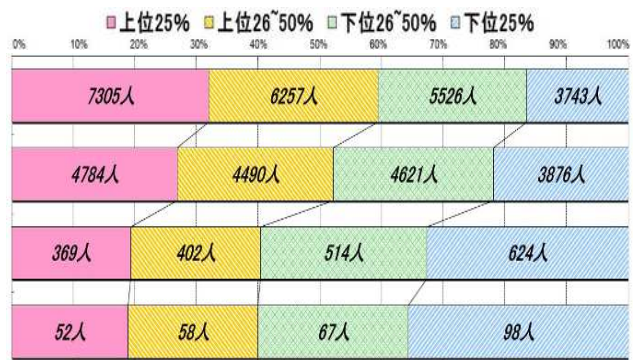
### 中学校1年



### 小学校5年



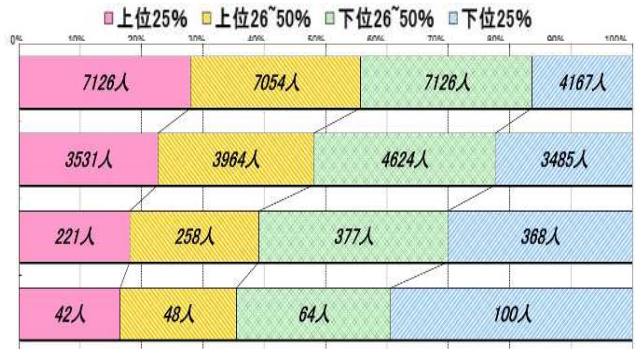
### 中学校2年



### 小学校6年

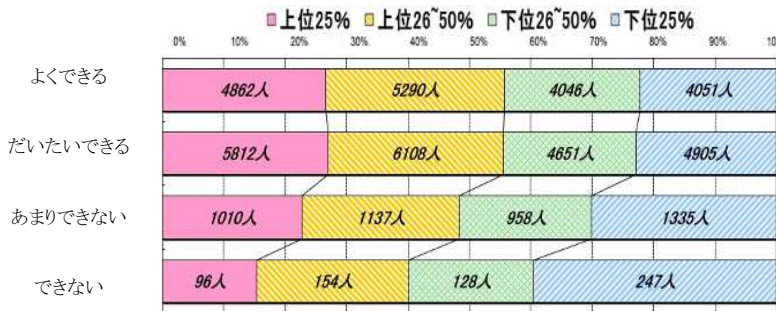


### 中学校3年

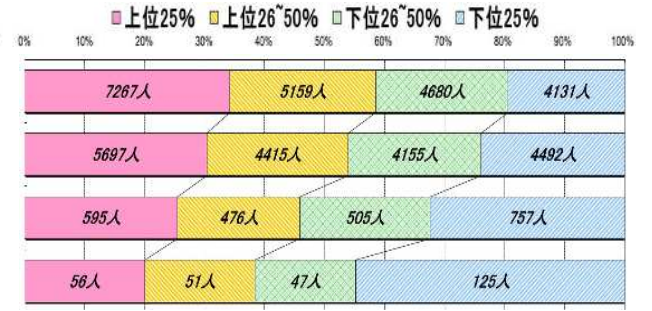


# 算数、数学

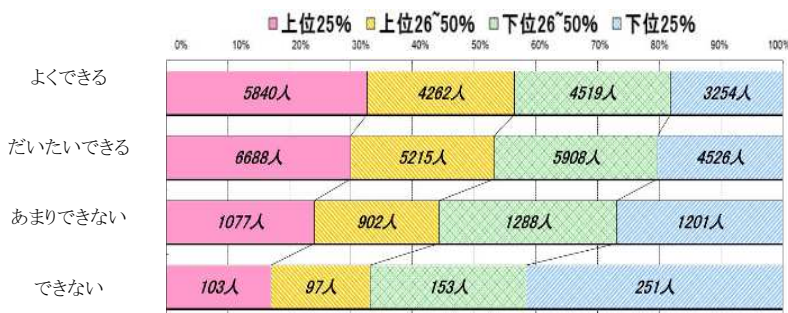
## 小学校4年



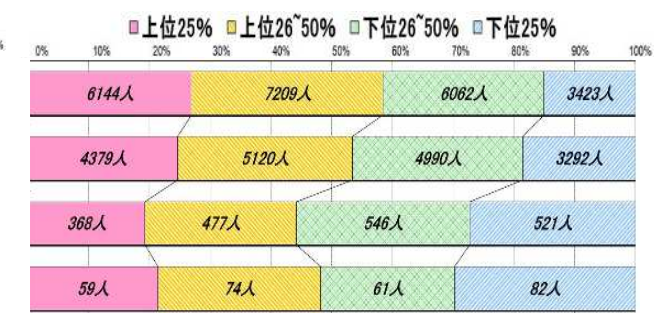
## 中学校1年



## 小学校5年



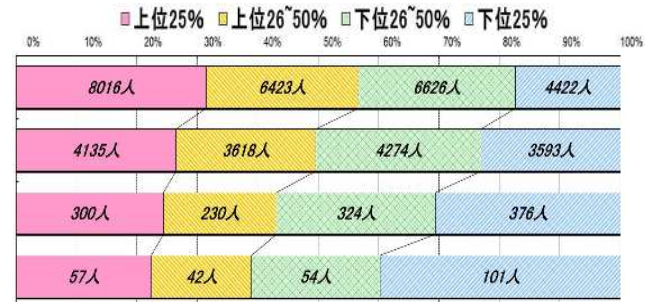
## 中学校2年



## 小学校6年

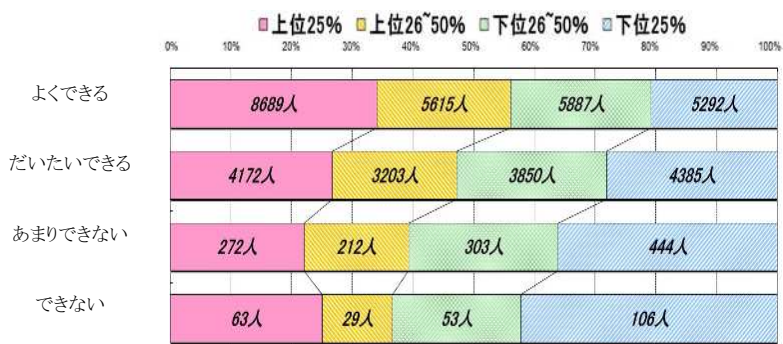


## 中学校3年

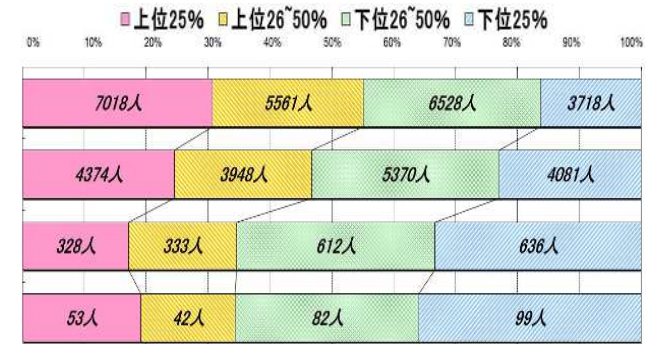


# 英語

## 中学校2年



## 中学校3年



## 【参考資料】これまでの分析から分かってきたこと（概要）

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。



【①～④】主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。  
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

### 平成28年度から令和元年度のデータ活用事業の分析から分かったこと

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて良い学級経営(落ち着いた学級づくり)が、学力や非認知能力を向上させ、子供の学力向上につながっている
- ・保護者や地域の方々が積極的に諸活動と関係している学校は、良い学級経営(落ち着いた学級づくり)を実現している傾向がある
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「授業に対する教員の意識変容」と「専門的な指導を受けながらの継続的授業改善」が重要である
- ・学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向がある
- ・毎年の子供たちの非認知能力を高めることが、学力の維持向上に重要である
- ・学級内における周囲との学力差は学力や非認知能力の変容に影響する

### 非認知能力とは？

認知能力とは……いわゆる学力であり、たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

非認知能力とは…認知能力ではない能力全般

#### 人間の能力

人間の能力		(埼玉県学力・学習状況調査で測っている非認知能力)
認知能力	自己効力感	自分はそれが実行できるという期待や自信など
非認知能力	自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
	動機性	やるべきことをきちんとやる など
	やりぬく力	粘り強い、根気がある など
	向社会性	相手の気持ちを考える、親切にする など

### 学習方略とは…学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

埼玉県学力・学習状況調査では5つの方略に分類



【帳票40】を活用することで、

児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

なお、平成28年度から令和元年度まで実施したデータ活用事業の分析結果等の詳細につきましては、ホームページを御覧ください。(https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

## 【参考資料】学習方略や非認知能力の質問事項

項 目	説 明
<b>学習方略</b>	<p>子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。</p> <p>① <b>柔軟的方略</b> … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動                      (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p> <p>② <b>プランニング方略</b> … 計画的に学習に取り組む活動                      (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ <b>作業方略</b> … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動                      (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ <b>認知的方略</b> … より自分の理解度を深めるような学習活動                      (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑤ <b>努力調整方略</b> … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動                      (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>
<b>【児童生徒質問の項目】</b>	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なお題だけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつけられるように努力する
出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉(2007)、心理測定尺度集/堀洋道監修/サイエンス社	
項 目	説 明
<b>非認知能力</b>	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の5種類について質問を行っている。</p> <p>① <b>自己効力感</b> … 自分はそれが実行できるという期待や自信                      (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p>
<b>【児童生徒質問の項目】</b> 自己効力感	令和6年度の全学年に質問 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができると思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う

<p>② 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の小学4年生、中学校2年生に質問 自制心 授業に必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p>	<p>出典： Tsukayama, E., Duckworth, A. L., &amp; Kim, B. (2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. <i>Developmental Science</i>, 16, 879-893.</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の中学1年生に質問 勤勉性 うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番を守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りはこちらかっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p>	<p>出典： Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., &amp; Pastorelli, C. (2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. <i>Personality and Individual Differences</i>, 34(4), 645-664.</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の小学5年生に質問 やりぬく力 大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいつぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません 始めたことは何でもさい後まで終わらせませす 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>	<p>出典： Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., &amp; Kelly, D. R. (2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i>, 92(6), 1087-1101.</p>
<p>⑤ 向社会性 … 外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力 (例) 相手の気持ちを考える、親切にする など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の小学6年生、中学3年生に質問 向社会性 私は、誰に対しても親切にしようとしている 私は、その人の気持ちをよく考える 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける 私は、年下の子たちに対して、優しくしている 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする</p> <p>出典： Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. <i>Journal of Child Psychology and Psychiatry</i>, 38, 581-586. Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. <i>European Child and Adolescent Psychiatry</i>, 7, 125-130.</p>	